

# 農作物技術情報 第7号の要約

平成20年9月25日発行  
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
<b>畑作物</b>	<p>大豆： 10月中旬から大豆の収穫が始まります。収穫機械の調整・清掃や圃場の除草を行い、適期に収穫できるよう準備をすすめましょう。また、施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。</p> <p>小麦： 小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。</p>
<b>野菜</b>	<p>雨よけトマト： 裂果防止のために夜間の保温や、全摘葉処理などを実施し収穫率を向上させましょう。</p> <p>露地きゅうり： 収穫が終盤にさしかかってきます。今後は整枝を控え、病葉・古葉などの摘葉を中心に行うとともに、薬剤散布と速効性肥料の追肥を行い草勢を維持しましょう。</p> <p>雨よけほうれんそう： 適切な温度管理で生育を調節しましょう。ハウレンソウケナガコナダニの被害が多くなる時期です。特に、春に被害があった圃場では、薬液が心葉まで届くように丁寧に散布しましょう。</p> <p>寒締めほうれんそうは、適期播種に心がけましょう。</p> <p>ねぎ： 最終土寄せは天候が安定している時に行います。 また、計画的な出荷に努め、品質の低下を防ぎましょう。</p> <p>キャベツ・レタス： 収穫終了後のマルチ、残渣の処理を適切に行うとともに来年に向けて土壌診断の実施や堆肥施用による土づくりに努めましょう。</p>
<b>花き</b>	<p>りんどう： 彼岸時期の生育・開花は、やや早めに経過しました。アザミウマ類やハダニ類の被害が多い地域が見られました。また花腐菌核病の発生が多く見られています。病害虫防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょ</p> <p>小ぎく： 9月咲品種は草姿、開花時期にややバラつきが見られましたが、おおむね順調に開花しました。全般にハダニ類、アザミウマ類が多く見られ、一部で上位葉への白さび病の発生が見られました。来年に向けて健全な親株を確保しましょう</p>
<b>果樹</b>	<p>りんご： 県内の定点調査によると、9月21日現在の果実肥大は、平年より大きくなっています。中生品種の成熟は、平年並み程度と思われます。着色管理、収穫作業を適期に行いましょう。特に、「ジョナゴールド」の収穫は、着色がばらつきますので、すぐりもぎを徹底しましょう。</p> <p>また、台風などの強風害に備え、防風ネットや支柱を点検し、園地の排水対策を講じましょう。</p>
<b>畜産</b>	<p>トウモロコシの収穫作業が始まりました。圃場・品種ごとに熟期を確認して作業を進めましょう。</p> <p>大雨・台風が来る時期です。大雨等による被害を受けた場合は、事後対策を講じましょう。</p> <p>牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。</p>

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成20年 9月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！  
新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」（過去記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>）

**大豆：**10月中旬から大豆の収穫が始まります。収穫機械の調整・清掃や圃場の除草を行い、適期に収穫できるよう準備をすすめてみましょう。また、施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。

**小麦：**小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。

## 大豆

**生育の様子：**天候に恵まれ、順調に登熟しており、成熟期は平年並みとされます。

### 1 収穫作業のまえに

#### 除草

シロザやアメリカセンダングサなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。

次年度の発生源にもなるので、収穫作業が忙しくなる前に除草を行いましょう。

#### コンバインの清掃

収穫作業の前には必ず清掃を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

#### 乾燥・調整施設の確認

乾燥・調整施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈り取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめてみましょう。

### 2 収穫

#### 成熟期の判断

適期に収穫するためには、まず成熟期を知ることが必要となります。

成熟期は次の2つから判断します。

(1) ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている

(2) 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。

成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からのコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期後日数(日)		収穫適期間
	早限	晚限	
コスズ	7～10日後	30日後	20～24日
スズカリ、ナンブシロメ	10日後	20～25日後	10～15日
青丸くん	10日後	16日後	6日間前後

「青丸くん」は、刈り遅れると子実の色抜けが生じます。直ちに刈り取れる体制を整えておき、収穫適期間になったら、一気に刈り取るようにしましょう。

### コンバイン収穫のポイント

- ・コンバインによる収穫は、成熟期以降で茎水分が50%以下となった時期です。
- ・茎水分が50%を超えると、こき胴でもまれ、汚損粒の発生原因となります。  
茎水分50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。  
周囲の株と違い、青々として残っている株は抜き取りましょう。
- ・子実水分が20%以上ではつぶれ粒の発生が多くなります。
- ・収穫の時間帯は、茎葉がよく乾いた頃(晴れた日の午前10時過ぎ～午後5時頃まで)に行いましょう。

### 3 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低減させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(1) 乾燥初期の送風温度を低く(25程度に)おさえましょう。

(2) 送風湿度を下げすぎないようにしましょう。

(送風湿度50%程度を下限値として、外気温湿度状態に応じて加温条件を設定。ただし、逆に大豆水分20%程度で乾燥初期に湿度と温度を上げると蒸れが生じる場合があります)

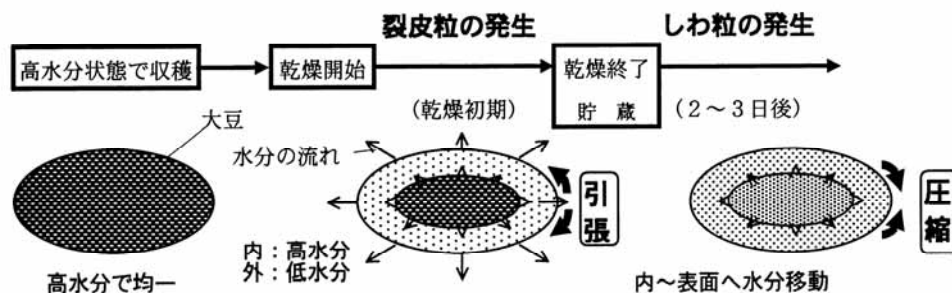
### 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒やしわ粒は、子実肥大期での充実不足等、成熟期までに生理的に起きるものもあるが、乾燥時にも発生することが知られています。急速な乾燥を避け、土作り等で地力の維持に努めることも必要です。また、亀甲じわは、子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが生じる原因でおきるので、刈り遅れは厳禁です。

裂皮粒・・・乾燥初期に表面水分のみが急激に低下した場合

= 送風温度が高く、乾いた空気を送った場合に多発!

しわ粒・・・同様に裂皮しない程度に変形した表皮に大豆中心部からの水分が移行し発生



# 小麦

## 小麦の播種適期を迎えています！！

例年播種が遅れることによって生育量が足りないまま越冬する小麦は場が多く見受けられます。適期を逃さず作業を行い生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。

### 1 小麦の播種適期を迎えています。

小麦をはじめ、畑作物にとって播種は非常に重要な作業です。適期を逃さず確実に播種を行い生育量を確保しましょう。

### 2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの播種量の考え方

- ・ 各地区の播種晩限から1週間遅れるごとに10%播種量を多くします。
- ・ 県中南部で播種時期が11月に入るような場合は冬期播種に切り替え、12月以降に播種を行います。
- ・ 播種適期はできるだけ守るのが基本ですが、ほ場条件が良くない場合には作業を見合わせましょう。無理に播種しても発芽不良になるだけです。適期が過ぎてしまった場合は播種量を増やし、目標株立数が確保できるよう努めましょう。

表2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期(月.日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

表3 品種別の播種量と目標株立数

品 種 名	播種量(kg/10a)		目標株立数 (株/m <sup>2</sup> )	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
コユキコムギ	6~8	8~10	120~160	41
キタカミコムギ	6~8	8~10	115~150	42
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80%(全面全層播は64%)として求めた。



**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

# 農作物技術情報 第7号 野菜

発行日 平成20年9月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター県域普及グループ(電話 0197-68-4435)

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！  
新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」(過去記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)

雨よけトマト 保温と裂果の発生防止  
露地きゅうり 重要病害に対する防除の徹底  
ほうれんそう 適切な温度管理と病害虫防除  
適期は種と温度管理による品質の向上(寒締めほうれんそう)  
大雨の事後対策 明きよの点検と草勢回復、病害の未然防止

## 1 生育概況

- (1) 露地きゅうりは、成り疲れや急激な低温による草勢の低下で出荷量は減少傾向です。べと病、炭そ病、褐斑病等の発生により収穫終盤の圃場も見られます。
- (2) 雨よけトマトは、小玉傾向により出荷量は減少傾向にありますが、草勢は回復傾向です。葉かび病、灰色かび病が増加傾向にあります。
- (3) ハウスピーマンは、草勢の低下や斑点病の発生が多い地域があるものの、生育は概ね順調です。露地ピーマンは気象災害もなく順調です。
- (4) 雨よけほうれんそうは、長雨、日照不足による影響がほぼ解消しました。ホウレンソウケナガコナダ二等の害虫による被害が散見されています。寒締めほうれんそうの播種が始まっています。
- (5) ねぎは、8月下旬の降雨の影響で最終土寄せができず、収穫がやや遅れている圃場も見られます。腐敗性の病害が一部で見られています。
- (6) 県北高冷地でのキャベツ・レタスは、病害発生などにより出荷量が減少しました。栽培は終盤に向かっています。

## 2 技術対策

### (1) 雨よけトマト

8月から裂果の発生が見られております。

今後、さらに発生しやすい条件が加わるので、夜間の保温に留意してください。この際、ハウスの密閉により湿度が高くなり、葉かび病や灰色かび病が再び多発したり、疫病が発生しやすくなるので、防除に努めてください。

なお、裂果の発生を軽減するために、主枝摘心後のわき芽は放任とし果実には直射日光が当たらないようにします。

また、裂果の発生軽減技術として全摘葉処理が有効です。全摘葉の処理時期は、最終収穫花房の果実がM規格以上の肥大を確認し、裂果が発生してくる9月下旬頃が目安となります。この全摘葉処理後、マルチ上に株をはわせ、不織布でトンネル被覆することで霜害を防止し、収穫期間の延長が可能となります。この処理は、ハウス内に強い霜が降りる前に実施します。



写真 全摘葉処理を行うことで、裂果の発生を防ぎ収穫可能な果実が増加する。時期は9月下旬～10月初めまでとする

## (2) 露地きゅうり

成り疲れと、炭そ病や褐斑病・べと病のまん延による草勢低下が顕著になります。特に、炭そ病と褐斑病を誤診している場面も見られますので、圃場での発生状況をチェックして防除に努めてください。この際、発病がひどい株は抜き取り、圃場外へ持ち出すことも必要です。また、ワタヘリクロノメイガによる果実への食害も見られますので注意してください。

今後は、気温も低下してくることから強い摘心は控え、アーチから飛び出した弱い芯を指先で摘む程度に止めます。摘葉は病葉・古葉・黄化葉等を中心に行い、追肥は収穫量を考慮しながら速効性のタイプを施用し草勢維持を図りましょう。

## (3) 雨よけほうれんそう

年内収穫のためには種時期はほぼ終わりです。現在生育中のほうれんそうが確実に収穫できるように、ハウスの開け閉めなどによる温度管理を適切に行いましょう。

ハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生も多くなります。べと病抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して、病害が発生しにくい条件にしましょう。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害が多くなる時期です。特に、春に被害があった圃場では、殺虫剤の散布を行いましょう。農薬散布は薬液が心葉まで届くように丁寧にいきましょう。

ハウス内への雨水の流入により枯死する例も見られています。圃場周辺の明きょはできるだけ深くして排水対策を十分に行いましょう。

作付け終了後は、来年の施肥管理適正化のために、土壌診断を受けるようにしましょう。

## (4) 露地葉茎根菜類

### ア ネギ

気温の低下とともに生育は緩慢となってきていますが、最終土寄せからの日数が長くなりすぎると、品質の低下につながりますので、計画的な作業に努めましょう。

一部でねぎの葉鞘内部に腐敗が見られています。長雨による傷みが主な要因と思われます。最終土寄せはできるだけ天候が安定している時に行いましょう。

なお、農薬散布は収穫前日数に注意して適正に行いましょう。

### イ キャベツ・レタス

県北高冷地の収穫は終盤です。作付け終了後のマルチ、残渣の処理を適切に行いましょう。病害により収穫できなかったものは早めに処理して、被害が蔓延しないように注意しましょう。

来年に向けて土壌診断の実施や堆肥施用による土づくりに努めましょう。

## (5) 冬春野菜

### ア 寒締めほうれんそう

パイプハウスを利用する場合は種期の限界は、地域や気象経過、品種、保温方法によっても異なりますが、10月中旬頃が目安です。

保温のし過ぎで生育が進むと、十分な低温に遭遇する前に収穫サイズに達してしまう一方、温度が低すぎると収穫サイズに達しないまま冬を越してしまいます。本県の寒締めほうれんそうの出荷期間は12月～翌2月が基本ですので、ほうれんそうの生育状況に応じて温度管理を行いましょう。詳しくは平成17年度試験研究成果「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」を参照して下さい。

大雪の影響でパイプハウスが倒壊する場合があります。寒締めほうれんそうを作付けするハウスは一棟おきにして、作付けしないハウスはビニールを外す等、除雪しやすいようにしましょう。

### イ 促成アスパラガス

気温の低下とともに地下部への養分転流が進む時期です。自然に黄化して枯れ上がるように、台風による倒伏などで茎葉が傷むことがないようにしましょう。

本年度も気温は高めに経過する予報です。根株の無理な早掘りは収量の低下につながりますので、5 以下の遭遇時間を参考にするなど(平成18年度岩手県農業研究センター研究成果)適切な時期の掘り上げを心がけましょう。

# 農作物技術情報 第7号 花 き

発行日 平成20年9月25日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 中央農業改良普及センター県域普及グループ(電話 0197-68-4435)

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！

新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」(過去記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)

りんどうの病害虫防除の徹底と、翌年に向けた収穫後管理を行いましょ

う 小ぎくの健全な親株を確保しましょ

## りんどう

### 1 生育概況

彼岸時期の生育・開花は、やや早めに経過しました。アザミウマ類やハダニ類の被害が多い地域が見られました。また、花腐菌核病の発生が多く見られています。

### 2 病害虫防除

葉枯病：秋期にも降雨により拡大する可能性があるため、株養成ほ場の防除を継続します。

褐斑病：発生がやや多く見られます。有効な薬剤を散布するほか、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分します。

花腐菌核病：夏期の高温のため子実体の発育が遅れ胞子の飛散が遅れていましたが、発生が見られています。花腐菌核病は花卉から感染するので、蕾から花卉が見えている品種の花蕾部への防除が必要です。各地域の暦にしたがって防除を進めてください。降雨が続く場合は散布間隔を短くし、防除は10月末までは継続します。発病が見られた場合は、菌核ができる前に被害茎を圃場外に持ち出して処分します。

リンドウホソハマキ：盛夏過ぎから茎への侵入による被害の発生が多く見られています。また定植一年目のほ場でも被害が見られています。発生の状況を確認するとともに、発生の見られるほ場では、残茎葉の折り取りを確実にし、ほ場外で確実に処分します。



定植苗でのリンドウホソハマキ被害

アブラムシ類・アザミウマ類：開花中～開花後に特に増加します。アザミウマ類やハダニ類の発生が多い地域がありますので注意が必要です。これらの害虫は、ウイルス病を媒介するおそれがあり、極晩生種でも発生が広がるので薬剤散布に努めます。収穫後の残花部分は確実に折り取り、発生を抑えます。

### 3 収穫後の管理

収穫後の圃場は防除がおろそかになりがちで、病害虫が多発しやすくなります。翌年の発生原因ともなるので、収穫後も防除を継続してください。

収穫後は花の着いた茎の部分を折り取り病害虫防除と株養成を促します。定植年の株でも開花しますので、花はできるだけ摘み取ってください。

茎葉の折り取り・刈払い：ウイルス病などの感染を防ぐため茎葉が完全に枯れてから刈り払います。晩生種や極晩生種は枯れる時期が遅くなりますが、無理に折り取ったり刈払うことで株を傷めることがあるので、その場合は春に折り取るようにします。



雑草防除：翌春の雑草対策のため、秋のうちから圃場内外の雑草対策を行うことが効果的です。

大雨や台風により滞水した圃場では、速やかに表面水を排水します。また床の上に土がかぶっている場合は、できるだけ早く土を除去します。大雨による滞水や泥の跳ね上がりから病害の発生が助長されるので、晴れ間を見て、品目ごとの農薬使用基準に従って、速やかに殺菌剤を散布し病害の発生を予防します。

## 小ぎく

### 1 生育概況

9月咲品種は草姿、開花時期にややバラつきが見られましたが、おおむね順調に開花しました。全般にハダニ類、アザミウマ類が多く見られ、一部で上位葉への白さび病の発生がみられました。

### 2 病害虫防除

気温が低下してくると白さび病の発生が多くなります。また、他の害虫類も残っているので、病害虫防除を継続します。切り花ほ場とあわせて、来年採穂用の親株への防除も行います。

### 3 栽培計画・親株管理

翌年の栽培に向け、各品種の開花期や特性を整理します。そのうえで品種構成や作付け面積を決定し、必要な親株の数量を確保します。

次年度用に選抜した親株には、収穫後、順次土寄せ、追肥を行って株養成します。茎が伸びてきたら適宜台刈りを行い、伸びすぎないように管理します。

親株のハウスへの伏せ込みは10月下旬～11月上旬頃までに行い、早めに活着させるよう管理します。伏せ込みは、品種や株の充実状態等により適する方法が異なり、また病害虫の持込程度も異なるので、適した方法で作業を進めてください。

親株での伏せ込みは、冬至芽の発生の少ない品種に適し、作業の手間も少なく済みますが、白さび病などの病害を持ち込む事が非常に多くなるので、薬剤散布に注意が必要となります。かき芽利用は、冬至芽の発生の遅い品種、少ない品種に有効ですが、病害を持ち込みやすくなり、株での伏せこみより手間がかかります。また冬至芽を利用する場合は、揃いが良くなり病気の持込が少なくなりますが、伏せこみ作業に労力がかかり、冬至芽の発生が少ない場合には利用できない事になります。

## ストック

### 1 定植後の管理

かん水：蕾が見える頃までは十分にかん水し、草丈を確保します。発蕾後のかん水量が多いと花穂部の徒長や茎の軟弱化を招くので、かん水を徐々に控えます。

温度管理：できるだけ涼しい温度で管理することを心がけます。霜が降りる頃まではハウスを開放しておきます。強風等によりハウスを閉める場合は循環扇等を利用して空気を対流させ、徒長や菌核病の発生を防ぐよう努めてください。

追肥：生育に応じて施しますが、草姿の悪化を防ぐため発蕾までに終えます。

### 2 害虫防除

コナガ：生育中の薬剤防除は、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の剤のローテーションでの使用を徹底します。

またハウスの開口部を防虫ネット（目合いが1mm以下のもの）でふさぐことも効果的です。この場合通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、風通しの悪い場所では注意が必要です。

農作物技術情報第8号は10月30日（木）発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

「気をつけて」朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。  
 ■文中で旧 URL(<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL(<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

## 農作物技術情報

## 第7号 果 樹

発行日 平成20年9月25日  
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
 編集 中央農業改良普及センター県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！  
 新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」(過去記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)

**りんごの着色管理を進めましょう！！**  
**りんご中生種の適期収穫・すぐりもぎを徹底しましょう！！**

## りんご

## 1 生育の状況

## (1) 果実肥大

りんごの果実肥大は、9/21現在の定点調査から見ると、全般に平年並からやや大きくなっています(表1)。また、8月中旬～9月上旬の降雨の影響で、園地によっては「ふじ」に裂果(つる割れ)の発生が見られています。

表1 定点調査におけるわい化りんごの果実肥大(調査日9/21, 果実横径: 単位 mm)

9月21日時点の生育状況	ジョナゴールド					ふじ				
	20年	19年	平年	前年比(%)	平年比(%)	20年	19年	平年	前年比(%)	平年比(%)
二戸市	95.6	88.0	91.1	109	105	84.4	83.7	84.8	101	100
岩手町	88.6	86.7	90.4	102	98	86.9	85.0	82.7	102	105
盛岡市	90.5	83.2	89.0	109	102	86.4	81.4	82.7	106	104
紫波町	93.9	87.1	90.6	108	104	85.2	79.4	85.5	107	100
花巻市	93.2	88.2	88.9	106	105	88.8	85.6	81.2	104	109
農研センター	89.1	85.8	91.1	104	98	88.0	85.2	84.0	103	105
北上市	93.4	86.3	92.5	108	101	89.8	83.1	85.7	108	105
奥州市前沢区	87.5	86.9	89.2	101	98	86.4	84.8	85.2	102	101
奥州市江刺区	89.5	87.2	90.1	103	99	83.7	79.8	81.8	105	102
一関市花泉町	95.2	90.1	87.9	106	108	82.1	78.4	81.6	105	101
一関市大東町	88.3	83.3	86.8	106	102	82.9	74.5	83.2	111	100
陸前高田市	84.5	85.5	88.7	99	95	81.2	81.9	82.9	99	98
宮古市	95.2	88.8	91.6	107	104	88.1	86.9	84.2	101	105
岩泉町	92.4	88.9	83.6	104	111	91.9	90.9	83.5	101	110
洋野町大野	90.2	87.4	87.9	103	103	82.5	81.3	81.4	101	101
県平均(参考)	91.1	86.9	89.3	105	102	85.9	82.8	83.4	104	103

## (2) 果実内容

本年の早生種の収穫は、開花期が平年より7～10日早かったにもかかわらず、平年よりも若干早くなる程度でした。「ジョナゴールド」の果実品質は、硬度が平年よりやや低いものの、糖度やデンプンの抜けなど平年と大きな差が無い状況となっており、中生種の収穫期についても概ね平年並になると考えられます(図1～3)。

しかし、今後の気象によって、熟度の進みが変化することがありますので、着色管理を進め適期収穫を心がけましょう。

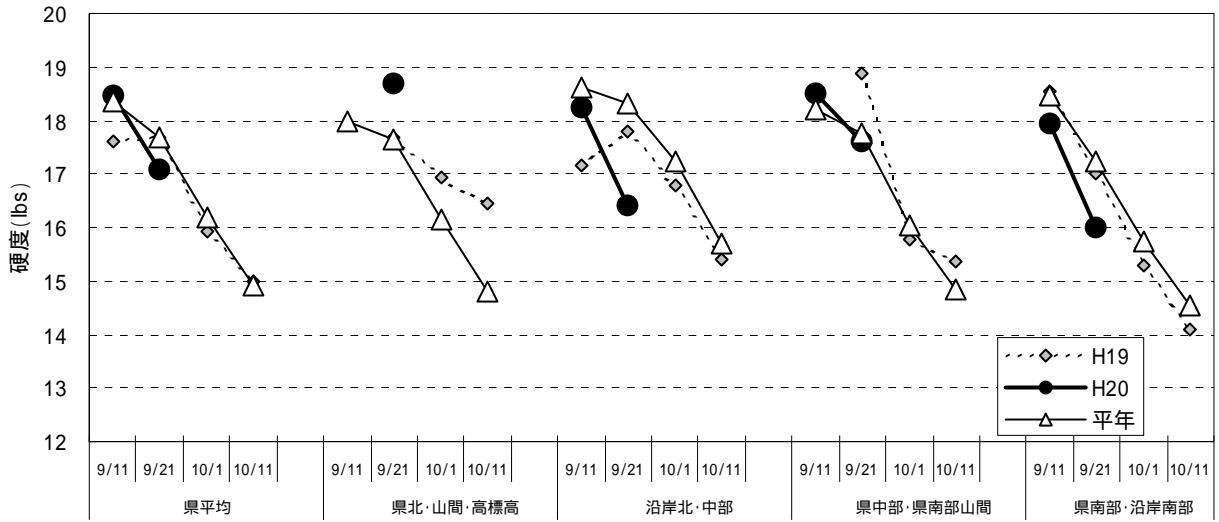


図1 ジョナゴールドの果実硬度の経時的変化

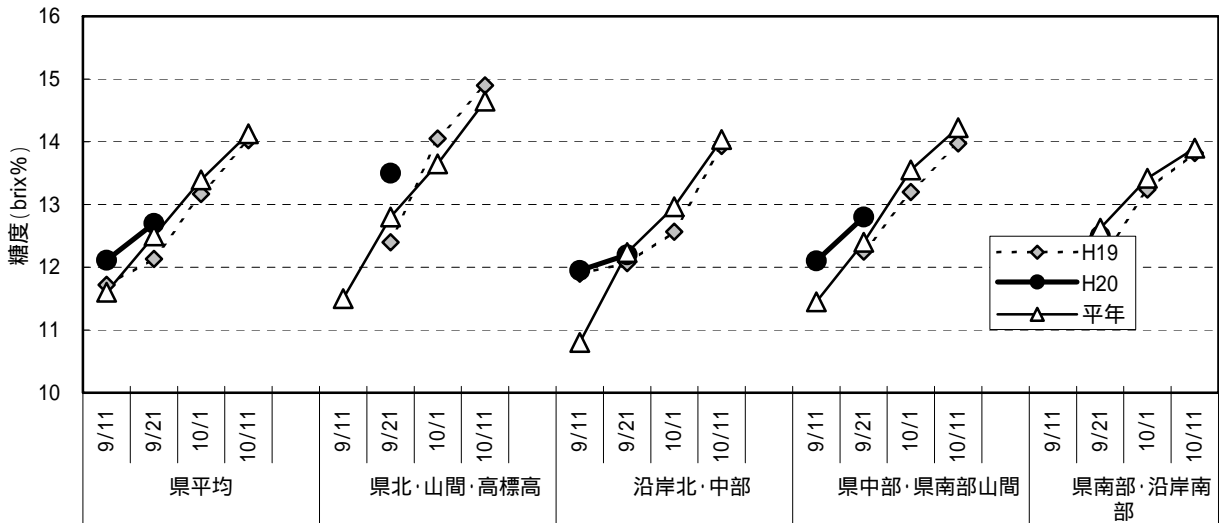


図2 ジョナゴールドの果実糖度の経時的変化

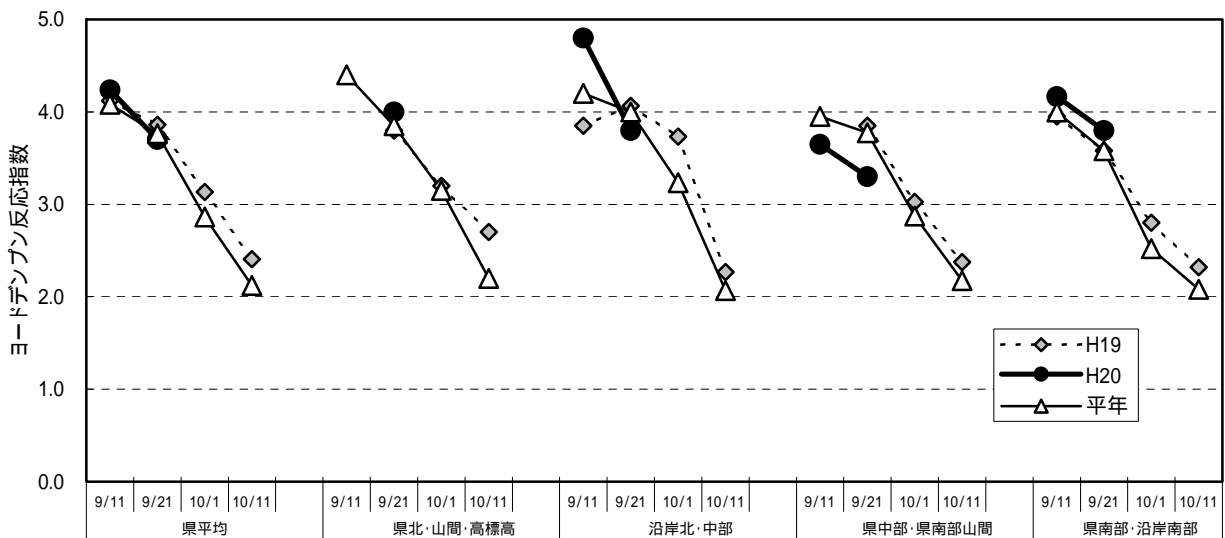


図3 ジョナゴールドのデンプン指数の経時的変化

## 2. 管理作業

### (1) 中生種の管理

ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉まわしと同時に適当な強さに葉を摘みます。

イ りんごの着色適温は15～20です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。

ウ 「ジョナゴールド」については、着色が不揃いとなりやすいので、徹底したすぐりもぎを行い、収穫と同時に葉摘み、玉回し等着色管理を進めます。

エ また、収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけましょう。

### (2) 「ふじ」の着色管理

「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いので、陽光面が着色してきた頃（9月下旬～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。

1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。

過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつき入りが劣る、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

表2 中・晩生種の収穫期の目安

品 種	満開日起算日数	硬度(ポンド)	糖度(%)
ジョナゴールド	145～155	13以上	13以上
王 林	160～170	14以上	14以上
シナノゴールド	170日以上	15以上	15以上
ふ じ	165～180	14以上	14以上

品種名	9 月			10 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ジョナゴールド		■				
ふじ				■		

図4 中・晩生種の収穫期の目安

## 3. 気象災害対策

### (1) 台風対策

10月についても、まだまだ台風が多く発生する時期です。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

なお、台風通過後の事後対策については、2008年9月18日発行の技術情報号外「台風対策」に掲載していますので、参照してください。

### (2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

## ぶどう

### 1. 生育の状況

紫波町の定点調査における「キャンベル」の果実品質は、果粒肥大および糖度は平年より良好（表4）となりました。また、着色開始についても平年より早い傾向にありましたが、その後8月中旬～9月上旬の日照不足、降雨の影響で酸が抜けにくく、園地によって裂果や灰かびの発生がありました。

表3 ぶどう「キャンベル」収穫直前の生育状況  
(調査日 9/5 調査地点：紫波町赤沢)

項 目	本 年	平 年	前 年
新梢長(cm)	122.9	138.3	119.3
節数(葉数)	15.5	18.1	14.4
房長(cm)	14.5	15.7	15.2
果径(mm)	21.5	20.2	20.6
糖度(%)	14.2	13.2	13.5

## 2. 管理の要点

### (1) 収穫後の薬剤散布と除草剤の秋処理

褐斑病や環紋葉枯病が見られる園地では、病原菌の越冬量を減らすため、収穫直後にジマンダイセン水和剤かZボルドーなどの薬剤防除を実施します。

また、10月上旬から11月上旬（落葉前まで）にかけて除草剤を散布すると、翌春の6月上旬頃まで雑草の発生を抑制できます。

なお収穫後の農薬の散布は、翌年度の生育期間の総使用回数にカウントされますので、使用する際にはご注意ください。

### (2) 改植について

ぶどうは、樹齢の増加によって、生産性や品質が低下してきます。老齢樹の多い園地では、改植を計画的に進める必要があります。

ぶどうは、他樹種と比較しても早期結実性であり、苗木のポット養成等による大苗移植と組み合わせると、それほど収量を落とさずスムーズな改植が可能です。積極的に改植を進め、園地の若返りを図りましょう。

**農薬を使用する際は、必ずラベル等で使用基準（登録の有無、収穫前使用日数、散布濃度、使用回数等）を確認して使用してください。**

農作物技術情報第8号は10月30日（木）発行の予定です。  
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。  
発行時点での最新情報に基づき作成しております。  
発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間**  
**「気をつけて」朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事**

# 農作物技術情報 第7号 畜 産

発行日 平成20年9月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 019-688-5525)

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！  
新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」 (過去記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)

注意！

この記事は発行年月日時点の情報のまま公開していますので、記事に於ける記載の法規制、農薬等の規制等については、発行日時点の法令に基づき記載しております。最新の法規制等の情報は、発行日時点の法令に基づき記載しております。

## 飼料作物

トウモロコシの収穫作業が始まりました。圃場・品種ごとに熟期を確認して作業を進めましょう。大雨・台風が来る時期です。大雨等による被害を受けた場合は、事後対策を講じましょう。牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。

### 1. 大雨事後対策

大雨等の被害を受けた圃場では、下記を参考に事後対策を講じましょう。

- (1) 転作田では、排水溝の点検を行い雨水の速やかな排水を促してください。特に、トウモロコシは湿害に弱いのでしっかり対策してください。
- (2) 倒伏・折損等の被害が著しい場合は早めに刈り取りましょう。
- (3) 収穫調製に際しては圃場の水分が十分に低下してから作業を行います。なお、倒伏したトウモロコシでは収穫作業時にハーベスタ食込み量の変動が大きく、切断刃の損傷やトウモロコシの詰まりを起しやすいため、作業機の運行速度は控えめに、圃場状態をよく確認します。切断長が粗くなりやすく原料密度が高まりにくいので、十分な踏圧と早期密封をして、発酵品質低下や二次発酵発生を抑制します。
- (4) トウモロコシ茎葉部に土砂の付着が多いと不良発酵の原因となるので、低刈りによる土砂混入に十分留意するほか、収穫作業は極力晴天時に行います。登熟が進んでいない場合には収穫時期を遅らせて土砂の自然落下を待ちます。土砂付着が多い状態で収穫しなければならない場合は、ギ酸などを添加して下さい。
- (5) 収穫後の踏圧作業は十分に行い、速やかに密封します。

### 2. 草地管理 - 牧草の刈り取り危険帯

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、気温が低下し日が短くなる短日条件化では茎葉の成長がしだいに鈍化して、株や根の肥大へと移り、越冬の準備態勢に入ります。

この時期に刈り取ると、来春の生育に悪影響を及ぼしますので注意が必要です。

#### (1) 危険帯の時期

オーチャードグラスでは、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間が刈り取り危険帯の時期となります。

牧草が休眠に入る時期である日平均気温が5℃以下になるまでに、牧草の地下部に越冬のための貯蔵養分が蓄えられるよう、この時期の牧草の刈り取りは控えましょう。

なお、各地域の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃)と終わり(日平均気温5℃)の時期はおおよそ次のとおりとなりますので、参考にしてください。

(下表を見ると、日平均気温15℃と5℃の期間が40日以上ある地点がありますが、牧草が休眠する5℃以下になるまでに牧草地下部に貯蔵養分が蓄えられればよいので、日平均気温が15℃以下になってから40日以上刈り取りを控えればよいこととなります。)

(リアルタイムメッシュ調べ)

	刈り取り危険帯の始まり (日平均気温15℃)	終わり(牧草休眠) (日平均気温5℃)
奥中山	9月24日	11月13日
久慈	10月4日	11月23日
盛岡	10月2日	11月19日
江刺	10月6日	11月17日
一関	10月8日	11月25日

#### (2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に施肥を行うと、牧草は養分の蓄積作業を止め、分げつや成長を始めてしまいますので、この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。

農作物技術情報第8号は10月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間  
「気をつけて」朝のひと声で 初心忘れず ゆとりの仕事